

筑波大学 ビッグデータ CoE の設立について

筑波大学システム情報系社会工学域(域長:大澤義明)は、2015 年 1 月 1 日より、10 年プロジェクト「サービス開発・改善のためのビッグデータ利活用」という学術的フロンティアに特化した CoE を自主的に創設し、“サービス工学×ビッグデータ”の分野で世界最高峰の研究拠点を目指します。

設立趣旨

筑波大学は、あらゆる面で「開かれた大学」となることを目指し、固定観念に捉われない「柔軟な教育研究組織」と次代の求める「新しい大学の仕組み」を率先して実現することを基本理念とし、我が国における大学改革を先導する役割を担っています。筑波大学システム情報系社会工学域は、社会問題を数理的アプローチによって解決することを目指す研究者が集う教員組織であり、その中核的な教育組織である筑波大学大学院システム情報工学研究科社会工学専攻において世界に先駆けてサービス工学学位プログラムを創設するなど、サービス工学の教育研究を先導しています。

筑波大学におけるサービス工学研究は、我が国における“成功するサービス”の開発論理に関する実証研究の成果(岡田, 2010)にもとづき、(1)効果性のサイエンス、(2)効率性のサイエンス、(3)統合のアート、(4)仮説検証とサービス進化、という 4 部分から体系化されたサービス開発方法論を基礎理論とする広義のサービス工学領域を扱っています。その実績を踏まえ、このたび、世界的に未開拓である「サービス開発・改善のためのビッグデータ利活用」という学術的フロンティアに特化した CoE(Center of Excellence in Big Data & Analytics for Service Engineering、サービス工学ビッグデータ CoE)を創設し、2015 年 1 月 1 日より 10 年プロジェクトとして“サービス工学×ビッグデータ”の分野で世界最高峰の研究拠点を目指します。

ビジョンと戦略

サービス工学ビッグデータ CoE は、筑波大学の基本理念に従い、以下のビジョンと戦略による産官学連携研究の“器(うつわ)”となります。この“器(うつわ)”の中で、複数の研究プロジェクトが実施されます。

ビジョン:あらゆる面で「開かれた CoE」を、“サービス工学×ビッグデータ”の分野で実現します。

戦略:固定観念に捉われない「柔軟な教育研究組織」と次代の求める「新しい CoE の仕組み」を追求します。

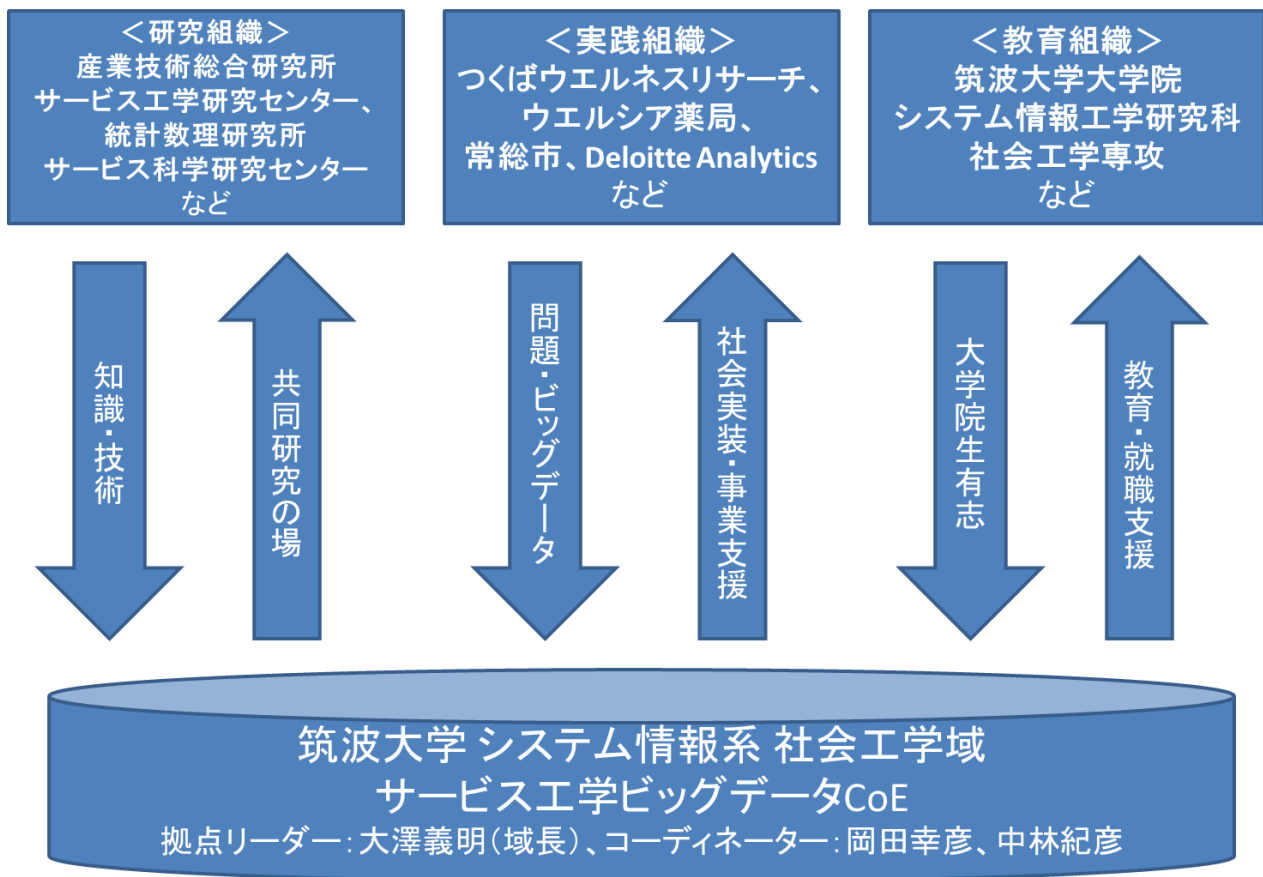


図 サービス工学ビッグデータ CoE の実施体制

サービス工学ビッグデータ CoE のビジョンと戦略は、上図の柔軟かつ開かれたネットワーク型連携体制によって実行されます。筑波大学発ベンチャーとして科学的根拠に基づく健康づくりとスマートウエルネスシティの実現を目指す株式会社つくばウエルネスリサーチ、超高齢社会における健康生活ニーズに応えることを目指すウエルシア薬局株式会社、直面している少子高齢化・人口減少への率先した対応を目指す茨城県常総市、アナリティクスを活用したコンサルティングサービスを世界で展開する有限責任監査法人トーマツ Deloitte Analytics、等の多様な実践組織が自由に問題を持ち寄り、それぞれの問題やデータについて研究プロジェクトを設置できます。そして、個々の研究プロジェクトに対して、筑波大学だけでなく、産業技術総合研究所サービス工学研究センター、統計数理研究所サービス科学研究センター、他大学等の研究組織に所属する有志が自由に知識・技術を提供し、より効果的な共同研究を推進します。さらに、筑波大学大学院システム情報工学研究科社会工学専攻を中心に、学内外の教育組織に所属する大学院生有志が広く研究プロジェクトに参画できるチャンスを設け、人材養成にも貢献します。このサービス工学ビッグデータ CoE に対して、ビッグデータ及びビジネス・アナリティクスのテクノロジーをリードする日本アイ・ビー・エム株式会社が技術的支援をする予定です。

問い合わせ先

岡田 幸彦(おかだ ゆきひこ)
 筑波大学 システム情報系 准教授